CRÉDIT AGRICOLE S.A.

[本稿は、同日リリースされた英文のCredit Agricole S.A. 2008 Annual Resultsの抄訳である]

2009年3月4日　パリ

クレディ・アグリコル・グループ*

2008年度

純利益(グループ帰属分):2,451百万ユーロ

Tier 1　比率:9.4%

クレディ・アグリコル・エス・エー

2008 年度
純利益(グループ帰属分):　1,024百万ユーロ

Tier 1　比率:9.1%、うちコアTier 1　比率:8.0%
予定配当:1 株あたり 0.45 ユーロ

2008 年第 4 四半期
純利益(グループ帰属分):　-309百万ユーロ

(*)クレディ・アグリコル・S.A.および地域銀行 100%連結ベース

クレディ・アグリコル・S.A.は、2009 年 3 月 3 日に、ルネ・キャロン会長を議長とする取締役会を開催し、業績のレビューおよび 2008 年 12 月 31 日に終了した事業年度の収支の承認を行いました。

2008 年度のクレディ・アグリコル・S.A.の純利益(グループ帰属分)は、2007 年度の 4,044 百万ユーロの黒字に対して、1,024 百万ユーロの黒字となりました。クレディ・アグリコル・S.A.は、昨年下半期に世界の経済に冷酷にかつ幅広く広がった大きな金融危機の中で、対応の速さと収益回復力を発揮しました。

危機に対する対応の速さは、以下の施策で証明されました。

- 5 月に発表した 58 億ユーロの増資により、この危機の最中、グループの目標 Tier 1 比率は 8%から 8.5%に上昇しました。
- 資本市場業務におけるリスク・プロファイルを削減するために、法人営業・投資銀行部門の事業ラインを 3 つの健全な業務(ファイナンス、ブロカーレッジ、債券)に絞ることを 5 月に決定しました。
- 組織上の対応策と 2008 年の経常費用削減(対前年比 0.7%の削減を達成)のための変動報酬の削減により、業務上の効率性が改善しました。

グループの収益回復力は、対前年比でわずか 4.8%の減少にとどまった銀行業務益に反映されています。資産運用部門および法人営業・投資銀行部門における市場に対するマイナスの影響の大半は、フランス国内におけるリテール銀行業務の堅調な業績により相殺されました。

グループの収益回復力は、消費者信用、資産運用、保険およびファイナンス業務といった専門の事業ラインの大半において、フランスの他の銀行よりも低い費用／収益比率にも反映されています。業務上の効率性の改善により、危機時には不可避である対前年比で 67%上昇したリスク関連費用の一部を相殺することができました。この費用上昇の大半は、ギリシアのエンポリキ銀行（Emporiki）、消費者信用、および法人営業・投資銀行部門における若干の不動産およびファイナンス・セクターへの残高に起因します。

2008 年中および 2009 年初に、クレディ・アグリコル・S.A.は、より競争力の高い商品を販売網に提供するために専門金融事業ラインを強化する対策を行いました。カリヨンとソシエテ・ジェネラルの専門子会社の合弁による ニューエッジ（Newedge） を設立し、上場デリバティブのブローカー業務における世界有数の会社となりました。グループの保険業務ラインは、クレディ・アグリコル・アシュアランスとして再編され、フランス最大のバンカシュアランス(銀行での保険窓販)専門の保険会社および欧州で 11 番目に大きい保険グループとして、銀行の販売モデルとの統合をベースに生命保険、損害保険、団体信用生命保険を提供しており、今後国際的に展開するでしょう。当グループは、アゴス（Agos）とヅカト（Ducato）の合併を完了し、イタリアにおける最大の消費者信用会社となりました。また、ソフィンコ（Sofinco）と フィナレフ（Finaref）を合併させ、クレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンスを設立しました。CAAMとSGAMの合併により、欧州における大手の資産運用会社を設立し、クレディ・アグリコル・グループとソシエテ・ジェネラル・グループの支店網および将来的には他の販売網に商品提供を行います。さらに、業界再編における積極的な役割を果たすために、ナティクシス（Natixis）とCACEISの持株比率を 85%まで高める独占的な交渉に入りました。

金融危機にもかかわらず、クレディ・アグリコル・S.A.は、強固な財務力のおかげで、これらの変革活動を成功裏に実行することができる資金力を有しております。この財務力は、420 億ユーロの自己資本および 1,010 億ユーロの資本力（自己資本（グループ持分）640 億ユーロ）を持つクレディ・アグリコル・グループの財務支援により支えられています。クレディ・アグリコル・S.A.の強さは、ソルベンシー比率にも実証されており、フランスでも最上位クラスである Tier 1 比率 9.1%およびコア Tier 1 比率 8.0%（2009 年 1 月 1 日現在）となりました。この水準は、新しい市場標準およびクレディ・アグリコル・S.A.のリスク・プロファイルからも十分であり、グループは、フランス政府が提案する第二弾の公的資金注入を受け入れる必要はありません。

*
*　*

2009 年 5 月 19 日に開催される株主総会で、取締役会は、株主に対して 1 株あたり 0.45 ユーロの配当金支払いの承認を提案します。配当金の支払方法については、以下の 2 つの選択肢があります。

- 全額現金による支払い
- 全額株式による支払い

取締役会の席上、クレディ・アグリコル・S.A.の最大株主である S.A.S. Rue La Boetie は、新株発行による配当金の支払方法を強く望んでおり、次回の定時株主総会での承認を前提に、実際にそうした行動を取るという意思表示がありました。

取締役会終了後に、クレディ・アグリコル・S.A.会長であるルネ・キャロンから以下の言及がありました。「昨年の未曾有の規模の金融危機にもかかわらず、クレディ・アグリコル・グループは、25 億ユーロの純利益および 9.4%の Tier 1 比率となり、欧州における大手銀行の 1 角としての立場を確認しました。今期の業績は、640 億ユーロの自己資本、58 百万人の忠実な顧客、および 16 万 4 千人の従業員の献身といった複数の要素の

賜物です。株主、とりわけ最大株主の自信を証明することができました。クレディ・アグリコル・グループは、約 4,250 億ユーロの融資残高を有するフランス経済の大手金融パートナーです。我々は、これまで以上に、サービス領域において、個人および法人のお客さまに尽くすことをお約束します。」

クレディ・アグリコル・S.A.最高経営責任者であるジョルジュ・プジェは、以下のコメントを行いました。「クレディ・アグリコルは、ビジネス・モデルを適合させることにより、この危機を評価し、素早く対応する能力があることを実証しました。市場環境がまだ相対的に有利な状況にあった 2008 年上半期に、前例のない大規模な(58 億ユーロ)増資を行いました。その成功は、地域銀行の協力によるところが大きいです。事業ラインにとって実践的なアプローチをとることおよび法人営業・投資銀行部門の大規模な組織改正を行うことにより、この 1 年を通じて、ビジネス・モデルを修正しました。リスク関連費用が対前年比 67%で上昇したにもかかわらず、10 億ユーロの純利益を計上することができ、クレディ・アグリコル・S.A.は、現状では順調な状況にあります。われわれは、足元の困難な状況下で自分たちの役割を果たすための準備を十分に行っており、一方で、積極的に危機後の土台作りを行っています。

2009 年財務カレンダー

2009 年 5 月 14 日	2009 年第 1 四半期決算発表
2009 年 5 月 19 日	定時株主総会
2009 年 5 月 27 日	クーポン支払日
2009 年 6 月 23 日	配当金支払日
2009 年 8 月 27 日	2009 年上半期決算発表
2009 年 11 月 10 日	2009 年第 3 四半期決算発表

クレディ・アグリコル・S.A. 2008 年度連結決算

(百万ユーロ)	**2008 年 第 4 四半期**	対前年同期比	**2008 年**	対前年比
銀行業務純益	**4,598**	**+91.1%**	**15,956**	**-4.8%**
営業費用	(3,146)	-5.7%	(12,635)	-0.7%
営業総利益	**1,452**	**-**	**3,321**	**-18.0%**
リスク関連費用	(1,614)	+35.9%	(3,165)	+66.8%
営業利益	**(162)**	**+92.4%**	**156**	**-92.8%**
関連子会社	(27)	-	868	-31.6%
その他資産処分損益	(280)	-	148	-
税引前利益	**(469)**	**-69.5%**	**1,172**	**-75.7%**
純利益(グループ帰属分)	**(309)**	**-63.9%**	**1,024**	**-74.7%**

金融業界をとりまく危機的状況にもかかわらず、2008 年度の銀行業務純益(グループ帰属分)は約 160 億ユーロと、4.8%の減少に止まりました。
フランス国内の LCL(ル クレディリヨネ銀行)支店網(2.9%の増益)に加え、国外事業(エンポリキを除外した場合、45%の増益)、リース事業およびファクタリング事業の底堅さが反映され、リテール・バンキング部門および専門金融サービス部門の純利益は増加しました。
一方市場悪化による影響により、資産運用部門の銀行業務純益は 7.2%減少しました。同様に法人営業・投資銀行部門の銀行業務純益は 31.9%減少しましたが、中核的事業に限ればその減益率は 3.4%に止まりました。

2008 年度の営業費用は 126 億ユーロとなり、前年比 0.7%減少しました。これは前年と同水準の前提で比較した場合（つまり、為替変動の影響を排除し、2007 年度 LCL Competitiveness Plan で計上した 6 億 100 万ユーロの引当金を排除）、リスク・資本管理、ならびに業務効率性の維持に配分した額が増加したにもかかわらず、営業費用は 2007 年より 1.6%減少したことになります。経費は全ての事業部門で削減されており、報酬の減額もこの削減の一部を成しています。法人営業・投資銀行部門での費用は 1 億 9,300 万ユーロ削減されましたが、これは昨年 9 月に発表された「リフォーカス・プラン」に沿ったものとなっております。

営業総利益は 18%減少し、33 億ユーロとなりました。

リスク関連費用は 32 億ユーロ（66.8%増）となり、リスクウェイト資産の 0.85%に相当します。世界経済の悪化を反映し、特にエンポリキ銀行（Emporiki）で大幅な引当金を要したグローバル・リテール・バンキング業務（8 億 8000 万ユーロ）、消費者向けクレジット部門（6 億 2,700 万ユーロ）、金融や不動産セクター中心に信用リスクが上昇した法人営業・投資銀行部門（13 億 1,000 万ユーロ）で費用が大幅増となりました。
不良債権は、銀行部門または顧客向けに貸出された総融資額の 3.1%となりました。当然ながら、不良債権のうち 69.7%は、既に個別もしくは集合的に引当が積まれています。

関連子会社の利益は 8 億 6,800 万ユーロとなりました（2007 年度は 12 億 6,900 万ユーロ）。この利益のうち国内地域銀行の寄与が 6 億 7,700 万ユーロとなりましたが、リスク関連費用の増加や、低迷する株式市場からの投資資本への悪影響で 21.7%の減少となっております。これは、地域銀行の堅実な業務へ悪影響を及ぼしました。
バンコ・エスプリト・サント（Banco Esprito Santo）の利益寄与が 1 億 6,150 万ユーロ減少しましたが、その要因は同行業務の減益に加え、同行の年金債務をクレディ・アグリコル・グループに費用計上したことによります。
さらに、22%の持分を有し、今回初めて連結決算に反映されるバンキンター（Bankinter）が 9,800 万ユーロのマイナス寄与となりました。

その他資産の純利益（4 億 2,800 万ユーロ）は、主にニューエッジの設立、自己資産運用、その他の事業活動で発生した 4 億 3,500 万ユーロからなっています。2007 年度のその他資産の純利益は、クレディ・アグリコル・S.A.がバンカ・インテーザとサンパオロ IMI の合併に伴い発生した 10 億 9,700 万ユーロの利益とクレディ・アグリコル シンガポールの資産運用部門の合弁事業解消による 2 億 2,000 万ユーロの利益が含まれていました。

2008 年度の、のれん代償却は 2 億 8,000 万ユーロのマイナスで、これは営業権減損損失としてエンポリキ銀行に 2 億 5,400 万ユーロ、インデックスバンク（IndexBank）に 2,500 万ユーロを計上した結果です。

エンポリキ銀行の赤字に伴う 52.7%の株価下落による少数持分 2 億 4,200 万ユーロ相当を減額した後のクレディ・アグリコル・S.A.の 2008 年度の純利益は 10 億 2,400 万ユーロ（グループ帰属分）となりました。

2008 年第 4 四半期にクレディ・アグリコル・S.A.は 2008 年 10 月 1 日より会計基準 IAS 39 を適用し、時価 120 億ユーロの資産を貸付金勘定に移しました。この資産の再分類が実施されなかった場合、純利益への影響は 4 億 9,800 万ユーロの減少となります。

2008 年 10-12 月期の銀行業務純益は 46 億ユーロと堅調に推移しました。

特に変動費の抑制による綿密な管理の結果、営業費用は前年同期比 5.7%減少し、営業総利益は 15 億ユーロ弱となりました。
リスク関連費用は 16 億ユーロとなり、前年同期比 35.9%増加しました。これは景気悪化によるもので、6 億 9,800 万ユーロの追加損失を計上した法人営業・投資銀行部門での損失とエンポリキ銀行に対する 3 億 400 万ユーロの減損損失が含まれます。関連子会社の純利益は 2,700 万ユーロの損失となり、これはバンキンター の初の連結化と連結子会社ののれん代の減損損失(エンポリキ及びインデックスバンク)が影響しており、この二つの要因が計 3 億 7,700 億ユーロの損失をもたらしました。
市場環境が悪化するなかで、資産価値の下落が決算に大きな影響を及ぼした結果、クレディ・アグリコル S.A. の第4四半期の純利益(グループ帰属分)は 3 億 900 万ユーロの損失となりました。

財務状況

クレディ・アグリコル S.A.の財務状況は健全です。2009 年 1 月 1 日現在、ソルベンシー・レシオ(Tier1)比率は 9.1%で、業務のリスク量に対して適切な水準を維持しております。

2008 年 12 月 31 日現在、クレディ・アグリコル S.A.の資本は 830 億ユーロとなっております。

株主資本は、2008 年 12 月 31 日現在、417 億ユーロ(グループ帰属分)となっており、2007 年 12 月 31 日時点では 407 億ユーロでした。株主資本の増加は、2008 年 6 月初旬に実施し、成功裏に終了した株主割当増資によるもので、売却可能な証券ポートフォリオの未実現益の低下を一部相殺しています。

バーゼル II への移行に伴い、リスクウェイト資産は 3,385 億ユーロとなり、2007 年 12 月 31 日時点から 660 億ユーロ減少しています。

資産運用、保険、プライベート・バンキング部門

株式市場で相場環境が悪化する中、2008年度の資産運用、証券および証券発行サービス、保険、プライベート・バンキング事業は好業績を維持し、収益、営業利益ともに十分なパフォーマンスを収めました。当グループは、全分野において保守的で厳格な管理を行うことで、フランス国内および海外における地位を強固なものにしました。

(百万ユーロ)	2008 年 第 4 四半期	対前年 同期比	前期比	2008 年	対前年比
銀行業務純益	**925**	**−17.0%**	**+1.3%**	**3,995**	**−7.2%**
営業費用	(468)	−5.1%	+5.9%	(1,866)	+3.5%
営業総利益	**457**	**−26.4%**	**−3.0%**	**2,129**	**−14.9%**
リスク関連費用	(73)	特になし	+55.1%	(116)	特になし
関連子会社	3	+45.0%	特になし	4	−52.5%
その他資産処分損益	(2)	特になし	特になし	(4)	特になし
税引前利益	**384**	−54.6%	−8.9%	2,013	−26.3%
純利益(グループ帰属分)	**271**	−55.2%	−7.0%	1,392	−26.7%
費用/収益比率	50.7%	+6.4 ポイント	+2.2 ポイント	46.7%	+4.8 ポイント

2008 年 12 月末時点の運用資産残高は 7,350 億ユーロに達しています。重複部分を除いた運用資産残高は

前年比 10.3%減の 5,508 億ユーロとなったが、これは株式市場の低迷とイタリアとスペインを中心とした資産運用の資金流出によるものです。

資産運用事業では、当グループの 2008 年 12 月 31 日時点の運用資産残高は、前年比 12.9%減の 4,575 億ユーロとなりました。このうちの 8.5 ポイントは評価損によるものです。年間の運用資産残高の流出は、マネー・マーケット(183 億ユーロ増)、元本保証型商品(49 億ユーロ増)、従業員株式貯蓄制度に対する大量の資金流入により、4.4%にとどまりました。この資金流入によって、リスク回避のために絶対収益追求型商品(268 億ユーロ減)やエクイティ商品(92 億ユーロ減)から流出した資金が一部相殺されました。

景気動向に合わせた賢明な運用戦略に支えられ、当グループの投資信託市場におけるシェアはフランス国内で 19.3%と首位に立ち、欧州でも 4.4%と指導的立場を強化しました。
ターゲットとする顧客基盤のための商品やサービスの種類は、ETF(上場投資信託)を開始したことでより完全なものとなりました。マレーシアでの支店の開設や、中国での約 10 億ユーロの運用資産残高を有する中国農業銀行との合弁事業の発展拡大など、世界的な拡大を続けています。それでも、2008 年の費用は前年比 8.4%減、既存店ベースでは 4.3%の減少と、依然として厳格に管理されています。

2009 年 1 月 26 日、クレディ・アグリコル・S.A.とソシエテ・ジェネラルは世界規模の資産運用会社の設立を発表しました。この提携は、両社の生産効率と販売力を結集するものであり、金融危機後を見据えた戦略の一部です。さらに、この統合は、近い将来に予想される資産運用業務の再編の流れを積極的に取り込み、競争力向上に資するものでもあります。この統合で 3 年以内に税引前で年間約 1 億 2,000 万ユーロの費用削減効果が見込まれています。

新会社は、持分比率はクレディ・アグリコルが 70%、ソシエテ・ジェネラルが 30%、欧州で第 4 位、世界では第 9 位の資産運用会社となります。新会社は 3 つの大きな利点を持つことになります。それは、顧客層に合わせた包括的な商品の提供、37 カ国をカバーする経営効率でトップの地位(目標収支率は 50%未満)、アジアの主要銀行との提携による急成長市場での確固とした地位です。この契約は関連規制当局の承認を経て、2009 年度下期に成立する予定です。

証券および証券発行サービス事業では、カセスが買収による拡大を続けており、営業総利益は既存店ベースで 11.6%増と、堅調となりました。
保管・管理資産は過去 1 年で 3.2%の減少にとどまっており、市場の急落に端を発した資産価値の下落に対する抵抗力を示しています。これは買収による増加(1,730 億ユーロ)と、2008 年 7 月 1 日付のナティクシス IS の証券発行者サービス、証券保管及びファンド管理業務の統合(1,450 億ユーロ)によるものです。2008 年末の保管資産は 2 兆 1,660 億ユーロ(2007 年末は 2 兆 2,720 億ユーロ)となった一方、管理資産は 9,460 億ユーロと安定しています。
クレディ・アグリコル・S.A.はナティクシスと、同社が保有するカセス SAS の株式および議決権の 35%を取得する独占交渉を始めました。独占交渉の成功や関係当局の承認、従業員代表グループとの話し合いに大いに左右されるものの、取引が成立すると、クレディ・アグリコル・S.A.のカセスに対する出資比率は 50%から 85%に上昇することになり、同社に対する独占的な管理を行うことになります。一方ナティクシスは 15%の株式を保有することになります。

プライベート・バンキング事業は経済危機と激動の市場の中で好業績を収めました。収益の減少は 8.1%にとどまり、市場に対する当グループの慎重な姿勢によって、顧客資産への影響は限られたものとなりました。
この 1 年、当グループは新規顧客の獲得及び新規資産の取り込みという戦略に成功し続け、新規の純流入額は 15 億ユーロに達しました。しかしプライベート・バンキング事業が特に第 4 四半期に厳しい市場環境の影響を大きく受けたため、この増加は目立たないものとなりました。厳しい市場の影響(142 億ユーロ減)を受け、運用資産は 2008 年通年で 111 億ユーロ(−11.6%)の減少となりました。 この損失は下期の為替相場が好転し

たことによるプラスの影響（11 億ユーロ増）によりわずかながら相殺されております。資産運用残高は 2008 年末に 853 億ユーロに達しました。

保険事業では、当グループは統合銀行の販売モデルに基づき海外での事業を拡大する戦略をとっており、今後も国際的に拡大していくものと思われます。クレディ・アグリコル・アシュアランス（CAA）持ち株会社は、この戦略の一部として設立されました。
生命保険事業では、当グループは非常に厳しい市場においてまずまずの業績を収めました。事業は堅調で、2008 年の保険料収入は約 200 億ユーロと前年比 6.4%の減少となったが、これは 2007 年には先の住宅購入貯蓄プランからの振替による利益が続いていたためです。保障型保険は、この 1 年で 8.2%と引き続き高い成長率となりました。貯蓄型保険では、商品範囲の多様化で新しい顧客層を獲得しています。また、フランス国外での事業の発展にも支えられており、BES ヴィーダ、CALI、CA ヴィタおよびエンポリキ・ライフ（最後の 2 社は 2008 年に統合）による保険料収入は 37 億ユーロに達しました。BES ヴィーダは特に年金商品で優れた業績を収めました。当グループの数理的責任準備金は前年比 5.6%増（既存店ベースでは 3.3%）の 1,922 億ユーロとなりました。プレディカの数理的責任準備金は 1,765 億ユーロとなり、フランス国内において、バンカシュアランスでは首位、保険では第 2 位の地位を確かなものとしました。
損害保険事業では、市場を上回るペースでの成長が続いています。保険料収入は 2007 年から 17.9%上昇し、22 億ユーロとなりました。このカ強い成長にはグループ企業すべてがかかわっており、この業績は、本業の伸びに加え、当グループによる顧客への対応によるものでもあります。例えば、冬台風のクラウスが直撃した後、請求の処理や支払いシステムを強化し、迅速な対応を行いました。
フランスでの保険料収入の増加は、農家や小企業対象の保険が 33.5%増と堅調であったのに加え、個人保険での個人傷害・医療保険が 20.4%の大幅な増加となったことに支えられました。LCL 支店網の展開のおかげで、市場シェアは自動車保険では 4.3%、住宅総合保険では 6.1%まで拡大しました。
2008 年 12 月 31 日時点の既契約数は 730 万件を上回り、前年比で 7.5%の増加となりました。
2008 年末、当グループの団体信用生命保険事業を行うため、CAA 内部に CACI（クレディ・アグリコル・クレディター・インシュアランス）が設立されました。CACI はフィナレフの保険及び再保険企業と、LCL の債務返済保険事業部のために設立された商品組成部門を統合して設立されました。CACI は欧州における市場リーダーの一角を占めています。

全体では、すべての事業分野において注意深く、厳格な管理を行うことで拡大を続け、2008 年の銀行業務純益は前年比 7.2%減の 40 億ユーロとなり、減少幅は限られたものとなりました。
営業費用は 3.5%の増加となったが、これは買収によるものであり、既存店ベースでは前年比 1%の減少となりました。営業総利益は 21 億ユーロとなりました。
この 1 年の費用/収益比率は 46.7%となりました（合併による変動を除外すると 45%）。
純利益（グループ帰属分）は14億ユーロとなり、クレディ・アグリコル・S.A.とインテサ・サンパウロの共同子会社であるCAAM Sgr合弁事業の解消による2億2,000万ユーロの利益があった2007年に比べ、26.7%の減少となりました。

法人営業・投資銀行部門

第4四半期の法人営業・投資銀行部門は損益分岐点に近い水準となりました。
非継続事業[6]による純利益は、IAS第39号の改定を適用して会計上の商品認識の変更後で、5億5,300万ユーロの損失となりました。
主要事業による純利益は5億600万ユーロとなっており、これはファイナンス事業による顧客がらみの収益が堅調だったことと、リスクヘッジのクレジットデリバティブの利益（4億9,100万ユーロ）によるもので、2億8,000万ユーロのリスク関連費用を相殺しました。資本市場事業と投資銀行事業では、リスク関連費用の1億9,100万ユーロを考慮すると、純利益は損益分益点に近い水準となりました。
資本市場事業のリスク因子は改善されており、非継続事業である、エキゾチック・エクイティ・デリバティブのエクスポージャーは減少しました。主要事業では、2008年12月31日時点のVaRは3500万ユーロを下回りました。

「リフォーカス・プラン」の目標は**年度中**に達成され、営業費用は 1 億 9,300 万ユーロ削減されました（ニューエッジはプロフォーマ・ベース）。さらに当グループは取引の改善と安全性向上のために、2008 年に 8,000 万ユーロを投資しました。このプランが開始されてから、2008 年 6 月 30 日以降に削減された正規従業員は、ブローカレッジ業務以外で 350 人、ブローカレッジ業務では CLSA を中心に 90 人となりました。
非継続事業による純利益（グループ帰属分）は米国住宅用不動産を担保とした CDO や ABS の割引の 8 億ユーロと、金融危機の悪化を受けて必要となった信用増強策に対する追加引き当ての 23 億ユーロを考慮すると、この 1 年で 34 億ユーロの損失となりました。 一方、2008 年の主要事業である法人営業、投資銀行事業による純利益（グループ帰属分）は、合計で 15 億 300 万ユーロでした。

法人営業、投資銀行部門

（百万ユーロ）	2008年 第4四半期	2008年 第4四半期*	対前年同期比* （ニューエッジはプロフォーマ・ベース）	2008年	2008年*	対前年比* （ニューエッジはプロフォーマ・ベース）
銀行業務純益	**1,435**	**1,861**	**+9.6%**	**1,893**	**6,354**	**−6.3%**
営業費用	(824)	(753)	−15.3%	(3,580)	(3,280)	−8.3%
営業総利益	**611**	**1,108**	**+37.1%**	**(1,687)**	**3,074**	**−4.1%**
リスク関連費用	(698)	(471)		(1,310)	(1,083)	
関連子会社	15	15		113	113	
その他資産処分損益	(1)	(1)		(2)	(2)	
税引前利益	**(73)**	**651**		**(2,886)**	**2,102**	
純利益（グループ帰属分）	**(47)**	**506**		**(1,924)**	**1,503**	

＊ 非継続事業による影響を除く

ファイナンス事業
2008 年のファイナンス事業における収益は通年で増加しました。 これは商業銀行業務の収益においてストラクチャード・ファイナンスによる収益が堅調に推移したためです。厳しい経済状況でリスク関連費用は増加しましたが、業績は順調でした。
リスクウェイト資産は、選択的な取引管理による貸付残高の減少を受け、2007 年 12 月 31 日時点の 948 億ユーロから 753 億ユーロに減少しました。

[6] クレジット・デリバティブおよびエキゾチック・エクイティ・デリバティブ

（百万ユーロ）	2008年 第4四半期	対前年 同期比*	前期比*	2008年	対前年 同期比	対前年 同期比 （恒常為替レート ベース）
銀行業務純益	**1,155**	**x2.2**	**+90.7%**	**2,683**	**+16.6%**	**+19.1%**
営業費用	(200)	−14.5%	−10.3%	(869)	−7.1%	−5.9%
営業総利益	**955**	**x3.4**	**x2.5**	**1,814**	**+32.9%**	**+36.3%**
リスク関連費用	(280)	+72.0%	+70.9%	(626)	x6	
関連子会社	24	−17.2%	−25.0%	121	−7.1%	
その他資産処分損益	(1)	特になし	特になし	(2)	特になし	
税引前利益	**698**	**x4.8**	**x2.8**	**1,307**	**−6.0%**	
純利益（グループ帰属分）	**538**	**x3.8**	**x2.7**	**967**	**−9.8%**	

ストラクチャード・ファイナンスでは事業の多様化により、2008 年の収益が第 4 四半期の 3 億 8,100 万ユーロを含め、2007 年の水準（シンジケーション割引を除いて 1.2%の増加）に匹敵する 12 億 8,300 万ユーロに達しました。レバレッジド・バイアウトとプロジェクト・ファイナンスの減少は、航空機、船舶、貿易金融の堅調な業績で相殺されました。
商業銀行業務では、収益がフランス国内と海外どちらも前年比 11%の増加となり、カスタマーリレーションシップがより堅固となりました。ファイナンス事業の収益には、クレジット・ポートフォリオ・マネジメントによるリスクヘッジのクレジットデリバティブの含み益である 4 億 6,900 万ユーロも含まれています。
営業費用は、厳しい管理の下、5.9%減少しました。
リスク関連費用には主にスペインの不動産問題に対する減損が含まれているが、それを考慮すると、ファイナンス事業による純利益（グループ帰属分）は、2007 年の 10 億 7,200 万ユーロに対し 9 億 6,700 万ユーロとなりました。

資本市場、投資銀行部門
激動の経済環境の中、資本市場と投資銀行部門の 2008 年の収益は、米国の住宅用不動産の減損と、モノライン保険会社の状況悪化の悪影響を受けました。一方、2008 年にはスプレッドの拡大によりストラクチャード商品における 7 億ユーロの含み益が発生しました。リーマン・ブラザーズの破綻、アイスランドの銀行問題、マドフ事件における総費用は極めて少ない 2 億ユーロでした。

（百万ユーロ）	2008年 第4四半期	2008年 第4四半期*	対前年 同期比* （ニューエッジ はプロフォー マ・ベース）	前期比*	2008年 *	対前年比* （ニューエッジ はプロフォー マ・ベース）
銀行業務純益	**280**	**706**	**−40.4%**	**−41.4%**	**3,672**	**−18.1%**
営業費用	(624)	(553)	−15.6%	−2.5%	(2,412)	−8.7%
営業総利益	**(344)**	**153**	**−71.1%**	**−76.0%**	**1,260**	**−31.5%**
リスク関連費用	(418)	(191)			(457)	
関連子会社	(9)	(9)			(8)	
税引前利益	**(771)**	**(47)**			**795**	
純利益（グループ帰属分）	**(585)**	**(32)**			**536**	

** 非継続事業による影響を除く*

この 1 年の非継続事業の調整後の、主要事業における純利益（グループ帰属分）は 5 億 3,600 万ユーロとなり、第 4 四半期は収益分岐点に近い水準となりました（3,200 万ユーロの損失）。
エクイティ事業による収益は、株式市場のボラティリティが極めて高かったことから、デリバティブで損失が生じ、ブローカー業務を行っているCAシェブールとCLSAの下期の業績が減速し、2007 年の水準から 9 億 5,500 万ユーロ [7] 減少しました。ニューエッジの業績は好調で、市場のボラティリティの高さによって利益を上げ、2008 年の第 4 四半期には最高益を記録しました。投資顧問サービスにおける収益は、2007 年と同程度となりました。
この 1 年の債券事業による収益は 17%減少したものの、第 4 四半期は安定していました。資金部門、外国為替部門、コモディティ部門は市場機会をうまく捉え、年間を通して好業績を収めたが、債券デリバティブのマイナストレンドで相殺されました。2008 年の債券事業による収益は 12%の減少にとどまりました。第 4 四半期の収益は 2007 年各四半期の平均まで回復しました。
営業費用は 9%[7] 減少しました。非継続事業を除き、限られた数の取引による減損を含めると、第 4 四半期のリスク関連費用は、1 億 9,100 万ユーロとなりました。

[7] ニューエッジはプロフォーマ・ベース

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

2008年のクレディ・アグリコル・グループの純利益（グループ帰属分）は、当グループの危機における対応の良さと事業の回復力を反映し、25億ユーロとなりました。

銀行業務純益は前年比3.9%減の285億ユーロとなりました。これは、リテールバンキングの堅調な勢いによるものであり、市場のマイナスの影響は相殺されました。

費用は抑制され、2007年よりも0.4%減少しました。これには合併範囲の変更や管理や生産にあてられた資金の増加があったなかでの、LCLコンペティティブネスプランに対する費用が含まれています。費用の減少は、リージョナルバンクが膨大な投資にもかかわらず営業費用を厳格に抑制したことを反映したものです。

営業総利益は83億ユーロとなりました。

リスク関連費用は59.3%増の46億ユーロとなりましたが、これには国際リテール銀行部門や法人営業・投資銀行部門の多大な費用が含まれています。さらに、事業環境の悪化に対する当グループの慎重な引当方針も反映しています。

子会社による収益は、バンクインターの初めての合併と、BESの利益が少なかったことのマイナスの影響を受けました。その他資産処分純益はインテサによる利益で押し上げられた2007年よりもかなり低いものとなりました。

2008年の純利益（グループ帰属分）は58.9%減少し、25億ユーロとなりました。

株主資本合計（グループ帰属分）は2008年12月31日時点で637億ユーロとなりました。2009年1月1日時点のCRD比率は11.2%、Tier 1比率は9.4%になりました。

百万ユーロ	2008	2007	△2008/2007
銀行業務純益	**28,455**	**29,610**	**(3.9%)**
営業費用	(20,192)	(20,272)	(0.4%)
営業総利益	**8,263**	**9,338**	**(11.5%)**
リスク関連費用	(4,600)	(2,888)	+59.3%
営業利益	**3,663**	**6,450**	**(43.2%)**
関連子会社	66	402	(83.6%)
その他資産純利益	142	1,374	(89.7%)
税引前利益	**3,871**	**8,226**	**(52.9%)**
税金	(958)	(1,735)	(44.8%)
純利益	**2,941**	**6,487**	**(54.7%)**
純利益（グループ帰属分）	**2,451**	**5,970**	**(58.9%)**

＊＊＊

インベスター・リレーションズ

Denis Kleiber +33 (0) 1 43 23 26 78
Philippe Poeydomenge de Bettignies +33 (0) 1 43 23 23 81
Colette Boidot +33 (0) 1 57 72 38 63
Brigitte Lefebvre-Hébert +33 (0) 1 43 23 27 56
Annabelle Wiriath +33 (0) 1 43 23 40 42